

## 17. 広域的な観光振興に関すること

### 経緯

広域的な観光振興については、平成 21 年度に「広域観光振興計画」を策定し、これを指針として 9 つのプロジェクトが推進されている。

広域観光振興プロジェクト名	プロジェクト内容
情報受発信拡充	木曾の魅力を地域内外・国内外に向けて発信し、「木曾」を売る体制を確立する
木曾とっておきコレクション	木曾の持つ遺産・様々な地域資源について掘り起こしと整理を行い、観光振興や地域活性化に資する
木曾路特産品認証	木曾が誇る自然や文化が育んだ特産品等をもって「知って」・「食べて」・「買って」いただく仕組みをつくる
スローフード街道	木曾の「食」をスローフードとして定着させ、積極的にアピールし、消費者に食していただく
都市農村交流	着地・滞在型観光を目指し、魅力づくりの柱として都市との交流を木曾全体として推進する
観光ガイド育成	既存のガイド組織のネットワーク化を図り、利用しやすい環境を整え、木曾の魅力の発信に資する。
笑顔・満足度アップ	観光業者や木曾地域全体の住民が、旅行者に対して心からのおもてなしの意識を持たせる。
担い手応援	地域を元気にしてくれる担い手を増やすため、地域として支援する仕組みづくりを行い、山里暮らしを推進する。
景観形成	「景観」を地域資源としてとらえ、住民・来訪者に対して感動と癒しを与えるため、景観向上に努める

### 現状と課題

過疎化の進む木曾地域にとって、地域間交流を推進し交流人口を拡大することは重要な課題であり、木曾地域振興構想に掲げる「水と緑のふるさとづくり」の実現に向け、観光の果たす役割は極めて大きい。しかし、年間 600 万人を超えた観光客は平成 8 年をピークに減少を続け、スキー場及びゴルフ場利用者の激減や通過型観光客の増加等、観光産業を取り巻く状況は依然厳しい。平成 23 年度の観光客数は、町村合併後の平成 18 年度と比較しても、10%の減少となっている。

なお、「平成の大合併」で木曾地域は 6 町村の構成となり、馬籠宿を有する旧山口村が岐阜県中津川市と、奈良井宿を有する旧檜川村が塩尻市とそれぞれ合併し、広域行政圏と従来の中山道木曾路のエリアとは一致しなくなったが、長い歴史により培われた「木曾路」という地縁を活かした、圏域を越えたより深い結びつきは継続している。

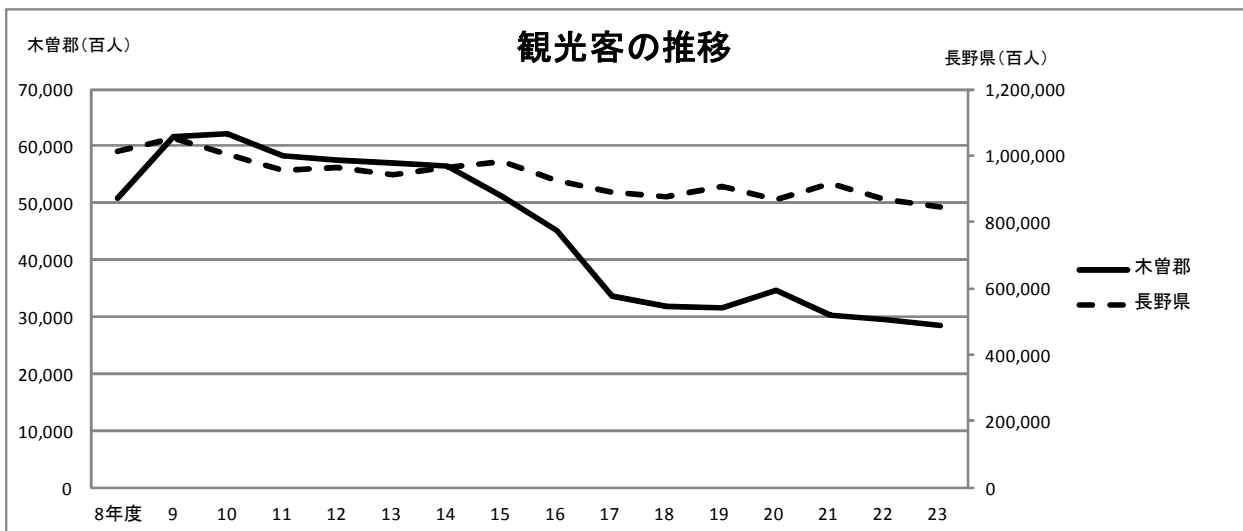
また、海外からの観光客については、若干の減少が見られるもののほぼ横ばいの状況となっており、宿泊客は平成 11 年度と比較すると 40 倍以上となっている。特に欧米・オセアニア等からの観光客によるところが大きく、近年アジア諸国からの観光客の増加もみられることからインバ

ウンド（海外からの観光客の受入）事業等の推進が重要な要素となっている。

次に交通体系の変化に目を向けると、木曽谷を南北に縦断するいわゆる縦軸については幹線となる国道 19 号に加え、木曽川右岸道路の整備が推進されており、国道 361 号（伊那～木曽～高山）や同 256 号（飯田～木曽～下呂）等によるいわゆる横軸として東西方向の連携も非常に重要となっている。また、平成 39 年度に東京名古屋間に開業が予定されているリニア中央新幹線について、観光活用の研究を進めていく必要がある。

木曽郡内の 5 町村（木曽町、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村）が、構造改革特別区域法に基づく「木曽地域どぶろく特区」の認定を受け、農家民宿を中心に観光客に自家米を原料とした「どぶろく」を提供できるようになったこと、更には平成 19 年 11 月には「こころのふるさと“木曽路”中山道」として国の風景街道に登録されたことは、今後の観光振興に大きく寄与するものと期待されている。

平成 21 年度に木曽地域広域観光振興計画が策定され、広域観光施策として 9 つのプロジェクトが推進されているが、今後「地域ブランド」、「担い手応援」プロジェクトに着手するとともに、現在推進中のプロジェクトの広域推進体制の確立が必要となっている。



(県観光部資料による)

## 今後の方針

木曽地域広域観光振興計画に基づく事業の研究と推進のための体制づくりを図り、新たな交通体系の研究と各町村の単独施策や隣接圏域の観光施策との連携により、広域的な観光振興を図る。

## 施策

- ① 木曽地域広域観光振興計画の推進
- ② 隣接他圏域との連携による観光推進
- ③ リニア中央新幹線の観光活用の研究